

● 会報第6号の発行によせて ●

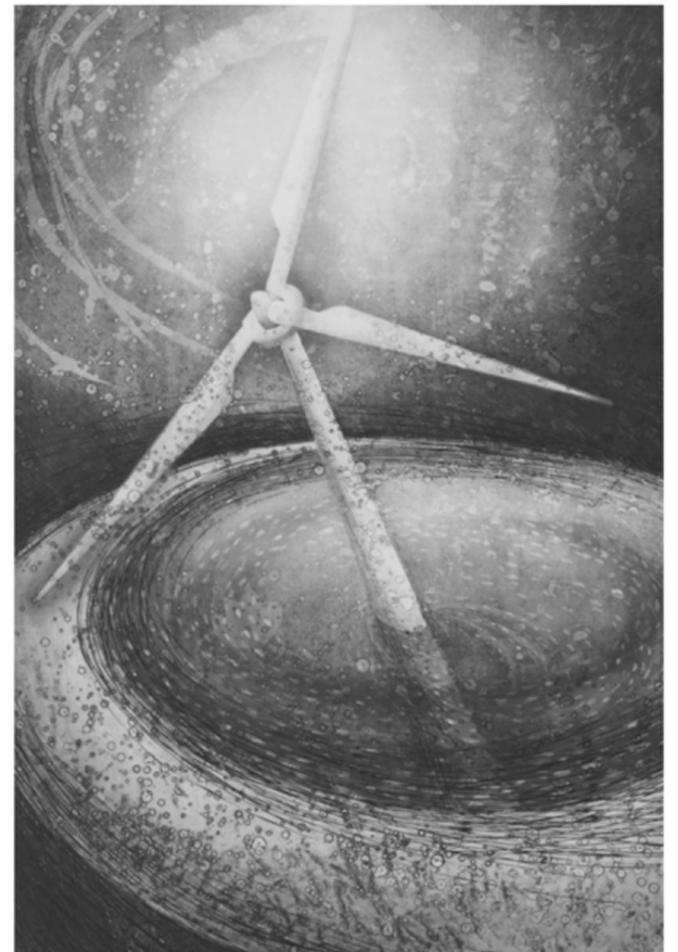
今回の会報では、昨年の京都市美術館別館、福岡アジア美術館で開催された日本・タイ国際版画展の報告を特集致します。

また、作家紹介ではギャラリーアーティストスロングなど京都を中心に活動されている滋賀県在住の川端千絵氏を取り上げました。

それぞれ、大変興味深い内容となっておりますので、是非じっくりと読んで下さい。

Kawabata Chie

川端 千絵



「風待ちの塔 # 1」
97cm×67cm
木版画
2005年制作

C o n t e n t s

■ 会報第6号の発行によせて

■ 作家紹介 川端 千絵さん

■ タイ・日本国際版画シンポジウム報告
清水 博文

■ 「日本タイ国際版画・博多展」騒動記
角間 貴生

■ 公募展案内

■ 掲示板

■ 編集後記

作家
紹介

Kawabata Chie

川端 千絵 さん



「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。
今回は川端千絵さんです。川端さんは京都を活動の拠点とし、滋賀県にて木版画を制作されています。
水をイメージさせる作品は独特の色の深みや奥行きだけでなく、風の香りやぬくもりを感じます。

- Q1. ご自身の作品について（テーマ、コンセプト等）
Q2. 作品を作る上で、1番大事にされている所はどんな所ですか？
Q3. グループ（団体）に所属して作品を発表する事について、どう思いますか？
Q4. 川端さんは滋賀県にお住まいですが、滋賀の自然（琵琶湖など）から何か感じておられますか？
また、それは作品に影響していますか？
Q5. 今後の作家活動について、将来の夢など教えてください。
Q6. 滋賀県のお勧めの場所があれば教えてください。

<A1>

はっきりとしたコンセプトやテーマはありません。自分自身の心象風景を延々と描き続けているだけの様な気がします。人はそれぞれ、自分だけの内面世界を持っていて、時々そこにふっと入り込んでしまう時があると思います。その世界の入り口は、日常の中のなんでもない何かである場合が多く、そこは心地よい静寂と孤独に包まれています。そんな世界を描きたいと思っています。



「風待ちの塔 # 2」
97cm×67cm
木版画
2005年制作

<A2>

本当に自分が作りたと思っているものかどうか、絶えず確認する事です。

<A3>

ある一定のレベルで常に審査や評価をされる事は刺激や励みになり、良い事だと思えます。また様々な機会を得るチャンスも生まれます。それは大きなメリットであると思えます。ただ、その団体の中だけに終止してしまうだけではつまらないと思えます。様々な場で作品を発表し、色々な側面からの評価を受けていくべきだと思えます。

<A4>

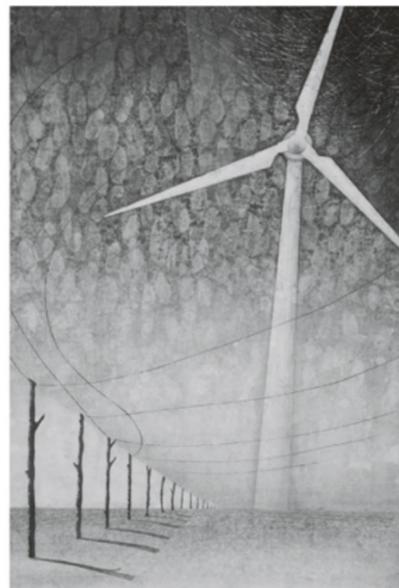
とても大きく影響していると思えます。私の家は琵琶湖を見下ろす高台にあるのですが、その風景を毎日見ているせいか、俯瞰した目線での風景をよく作品にしているように思えます。また、天候によって毎日水面の色が変わって見える琵琶湖も大好きです。

<A5>

いろんな場所やもしくはいろんな国の展覧会に招かれるような作家になりたいです。自分が作品を作っているという事によって世界が広がり、それとともにたくさんの人達に出会えたら、ほんとうにおもしろいだろうと思えます。

<A6>

雪の積もった比良山を晴れの日に遠くから見るとほんとうに綺麗です。湖西道路を福井方面に走ると絶景の比良山が見れます。ドライブに是非。



「風待ちの塔 # 3」
97cm×67cm
木版画
2005年制作

プロフィール

- 1974年 京都府生まれ
1998 京都精華大学美術学部造形学科版画専攻卒業
2000 京都精華大学大学院美術研究科造形専攻版画分野修了

主な活動

- 1997年 第49回京展<紫賞>受賞（京都市美術館/京都）
2001 あおもり版画トリエンナーレ（青森/青森市民美術展示館）
ふくみつ棟方記念版画展（福光美術館/富山）
日本・中国国際版画展（京都市美術館別館/京都）
2002 第2回山本鼎版画大賞展<佳賞>（山本鼎記念館/長野）
2003 京都府美術工芸新鋭選抜展
第71回日本版画協会展<賞候補>（東京都美術館/東京）
第55回京展<市長賞>（京都市美術館/京都）
日本・ブルガリア国際版画展<奨励賞>（京都市美術館別館/京都）
2004 日本・ブルガリア国際版画展受賞者展（平安画廊/京都）
あおもり版画トリエンナーレ（青森/青森市民美術展示館）
ふくみつ棟方記念版画展（福光美術館/富山）
2005 2005新鋭美術選抜展（京都市美術館/京都）

個展

- 2001 ギャラリーアーティストロング（京都）
2002 ギャラリーアーティストロング（京都）
2003 画廊 編（大阪）
2004 平安画廊（京都）
2005 ギャラリーアーティストロング（京都）

タイ・日本国際版画シンポジウム報告

清水 博文

KYOTO 版画 2005 「日本・タイ国際版画展」の行事の一環として展覧会の二日目、2005年9月28日（水）P.M.（午後）2:00～4:00に「タイ・日本国際版画シンポジウム」というタイトルでパネルディスカッションが行われました。平日にもかかわらず100名をこえる出席者がありました。

今回は会場を京都造形芸術大学 NC201 講義室をお借りしパネラーに和歌山県立近代美術館の奥村泰彦氏、タイからピサヌ・スパニミット氏、版画協会から平木美鶴氏をむかえ、通訳を交えながら「タイ現代版画の現況」というテーマのもとに進められました。

タイの版画事情に詳しい和歌山近美の奥村泰彦氏からはパソコンのスライドショーを使い液晶プロジェクターでスクリーンに画像を写しながら、タイの版画の歴史も交えタイ版画の全貌をレクチャーしていただきました。つづいてタイのピサヌ・スパニミット氏より主にタイの現代作家についてパソコンを使用しての詳しいレクチャーがありました。途中休憩をはさみながら後半は質疑応答というかたちになりました。

ディスカッションの中では、タイの現代版画家の作品の紹介やその作



会場風景①

家のテーマや技法について、またタイを取りまく社会状況や環境の問題がテーマにどのように影響しているか、タイでの版画教育のしくみがどのようになっているのか、日本の技術の高さやそれに学ぶこと、コンセプトの大切さ等が話し合われました。

まだまだ質問はでそうでしたが、最後に黒崎先生のことばで会は締めくくられ、予定時間を大幅にオーバーしての閉会となりました。

近年、国際的にも活躍のめざましいタイの版画もシルパコーン大学に版画のコースが出来てからのこと、今後ますます勢いができそうなタイの版画の熱を感じました。

最後に大学の教室を借りての講演会にもかかわらず学生の参加者が少なかったのが少し残念に思いました。（版画専攻以外の学生がほとんどいませんでした。）版画は一つの表現ジャンルとして確立していると思っておりますが、まだまだ一般的には認知が低いのかなと感じさせられ、これからも版画の発展と普及活動を続けて行く必要を（特に若い人へ）感じました。



会場風景②

「日本タイ国際版画・博多展」騒動記

角間 貴生

版画国際展の福岡展は何年越しかの念願だったと聞いている。そんな展覧会だからどうせやるなら大きく盛大にやりたい…それが福岡展に賭けるほどの思いだった。

オープニングには様々な人々に招待状を出した。ターボンさんらタイ作家、福岡市長にNHK局長、地元の西日本新聞の文化部長やらタイ政府関係の人々やらと、とにかく会を賑やかにしてくれそうな人々に…招待状を出したのだ。これで皆さんに来て頂ければ「日本タイ国際版画展・福岡展」は大成功!のはず。

ところが…である。まずタイのターボンさんらから「来日できない」とのメール。そして次に市長秘書から「オリンピック誘致で忙しく…」との電話。そしてNHKからは「副局長が出席を予定していましたが別の予定ができたので…」。当のアジア美術館からは「館長が風邪で…」という具合にキャンセル続出。

そしてオープニングの当日。タイ貿易センターのカムヘーンさんが来らへんみたいよと思えば、分厚いフードに顔面いっぱいマスクをして現れた佐藤完児郎さんはゴホンゴホンと声も出ない悲惨なお姿だったので早々帰っていただいたし…、隣りではお立ち台の上でマイク練習の田島さんが「まあ、どうせ誰も来ないのだからここで独り何か好きなことしゃべればいいんやろうな…」なんて不吉に戯れていらっしやるし、外は何年来の寒波。窓の外は雪が舞い…。根っからの大悲観論者でニヒリストのぼくはアレルギー鼻炎で鼻水を垂らしながら「あーあ、黒崎さん、坂爪さん、オランダなんぞに居らんでよ」

ところが…である。ぼくの悲鳴が聞こえたのか、ギャラリートークの始まる5～6分前から続々と人々がやってくるではないか。まるで天使の行列のように。ようやく10分遅れでぼくがフロアの真ん中に立ち、田島・斎藤・平木さんや九州の作家たちにもお客様たちの前に並んでもらってさあ司会の挨拶を始めようとしたら、ぼくのケイタイが突然鳴った。「もしもし〇〇ラジオ放送です。3時の番組でおたくの展覧会のことを紹介しようと思うのですが…」と若い女性アナウンサーの声。肝心の〇〇がよく聞き取れなかったけれど、そんなことは構っておれない。こちらも早口で説明するのだが、向こうもしつこくどンドン訊いてくる。ぼくの前ではたくさんのお客…おもにおばちゃんたちが並んだまま「まだか、まだか」としびれを切らしている。ぼくは汗だくで対応しながら、何度も「もうギャラリートークが始まっていて今皆さんが目の前で待っていらっしやるんです。」と悲鳴を上げるけれど、ケイタイの中の女性アナも必死でさらに質問の山。やっと終わらせてもらったら、田島さんが「今のはNHKか?」…「やあー、どこやったろうか」とぼく。

ギャラリートークはまず田島・斎藤・平木さんに自らの作品の前でその解説をしていただいた。さすが九州である。おばちゃんたちがどんどん質問してくる。後ろで加藤恵さんたちが写真撮影をしている。盛り上がりそう。その後は九州の作家たちが自らの作品の説明をする。どの説明もそれなりに長くてギャラリートークはなかなか活況を呈した。延々2時間以上。気がついたら、みんなずうと立ちっぱなしで疲れはてた観客から順々に一人ずつ脱落していったようだ。最後は「銅版画をやられる時はどうぞ我が工房へ」と笑わせたところでお開きとなりました。後の飲み会で、田島さんは「あれはギャグじゃなくてかなり真剣だった」とぼくに言った。

6時からいよいよオープニングセレモニーである。久しぶりに会った昔の友人と話をしている暇もなく、周囲はたくさんの人ばかり。百人ぐらいは来てくれたかも知れない。

「取りあえず一度皆さんに会場から出ていただいて、まずはテ・プカット。テープカット。」ぼくらは大忙しだ。まず、安永元館長とタイ政府観光庁のトーンティップさん、タイ政府貿易センターのカムヘーンさんやタイ航空のワラワンさん、そして京都の皆さんらに一列に並んでもらい無事に

テープカットが終わると、会場内でのセレモニーだ。館長の代理で話していただいた安永顧問の挨拶はさすがだし、田島さんの挨拶もなかなかだ。タイ政府の挨拶は「タイと日本は同じ王国で…」とこれも結構長いがタイ語の柔らかい響きが日本人には珍しく観客たちにも好評のようだ。「隣のレストランはアジ・カフェで簡単な宴会の席を用意しています。みなさんには会場内の絵をもう少し見ていただいたら場所を移して30分後にパーティを始めます。」このパーティも裏方で奔走してもらった徳成、田中さんたちのおかげで大盛会だった。

こうして展覧会のパブリックなオープニングは無事終わった。多くのお客さんたちも帰った。「さーあ、これから長浜ラーメンに行きましょう。」と呼びかけるとなぜか若い女性たちが「私も」「私も…」と言っている。ふだん多くの銅版画教室には滅多に通って来ない女性たちがなんでこんな飲み会だけは威勢良く参加するのだろうか、どうも納得がいけないが、横で斎藤さんが「若い女の子は大歓迎!」と叫んでいるし、まあいいか。

タクシーで押しかけたテント張りの屋台ラーメンは破れたテントの隙間から風がびゅうびゅう入り込み、周囲のお客たちの騒々しい声でちょっと怪しいが、無事、大仕事が終わった安心感からかやがて酒も話も絶好調。ぼくらの博多の夜は酩酊していったのだ。

9日に田島さんたち3人が帰ったあとは、10日間は長かった。来る日も来る日も例年にない寒波。どうも客の出足が今ひとつだったが、最後のワークショップが良かった。ひどい風邪なのに盛り上げてくれた佐藤さん、ご苦労様でした。女性客が全員佐藤さんの方に行ってしまう、おかげで多くの制作ワークショップの方は惨めでしたが、展覧会自体は総じて成功だったと胸を張りたいと思います。それから、最終日の搬出のお手伝いに来ていただいた良平さん、佐久間さん、本当にありがとうございました。またギャラリーを提供して下さった武田さんや平田、田中、徳成、赤司、加藤、藤本、大山さんなど多くの皆様方に感謝したいと思います。おかげさまで楽しい思い出深い展覧会でした。

公募展案内

(詳細を知りたい方は、募集要項をお取り寄せ下さい。)

■第74回日本版画協会展■

<直接搬入> 2006年3月26日(日)午後12時より午後4時まで。3月27日(月)午前10時から午後4時まで

<委託搬入> 2006年3月16日(木)~23日(木)の間に必着のこと。

<応募規定> 公募展未発表の版表現されたものとする。

すべて壁面陳列に適切な装備(作品保護)を施すこと。

作品の大きさによる部門別審査とする。作品規定は以下の通り。

A部門: 出品作品の額外寸が75×60cm以上200×200cm以内

B部門: 出品作品の額外寸が75×60cm未満

フレーム(額)1枚を1点と見なすので、組作品は1枚のフレームに装備すること。

ガラスを使用した額装は不可(アクリル等が望ましい)。

<会期> 2006年4月6日(木)~4月21日(金)/17日(月) 休館

午前9時~午後5時(入場4時30分まで)但し最終日は午前3時(入場2時まで)

<会場> 東京都美術館

<賞> 入選作品の内より、日本版画協会賞(30万円)1名、山口源新人賞(25万円・受賞作品額付き買い上げ)2名、他に新人賞(10万円・シートのみ買い上げ)、立山賞(10万円・シートのみ買い上げ)、A・B各部門奨励賞若干名、賞と賞金を贈ります。(山口源新人賞受賞作品は沼津市に帰属します)

<応募要項・問い合わせ> 社団法人日本版画協会事務局

〒252-0826 神奈川県藤沢市宮原3447-3 鈴木方

TEL・FAX 0466(48)1149

展覧会期中の事務所 TEL03(3823)6921 東京都美術館内、版画展事務所

掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●朝日みお●

<展覧会>

会期: 2006年2月10日~3月3日

場所: ギャラリー山の手

札幌市西区山の手七条6-25

TEL: 011-614-2918

<日本・タイ国際版画展受賞者展>

会期: 2006年5月9日~15日

場所: 平安画廊

京都市中京区寺町三条上ル

●角間貴生●

<角間貴生版画展一夢と詩のイメージたちー/日本・タイ国際版画展受賞者展>

会期: 2006年5月16日(火)~21日(日)

場所: 平安画廊

京都市中京区寺町三条上ル

TEL: (075) 231-0694

内容: 自然と人間との交感をテーマに自らの心象風景を具象化した木版画・銅版画作品

<角間貴生版画展&ワークショップ>

会期: 2006年6月13日(火)~18日(日)

場所: 福岡市美術館・特別展示室B

福岡市大濠公園

●久木 朋子●

<久木朋子木版画展>

会期: 2006年6月15日(木)~21日(水)

場所: 近鉄百貨店 阿倍野店 6階 アートギャラリー第2

大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43

●敷地光子●

<敷地光子銅版画展>

会期: 2006年5月30日(火)~6月10日(土)

場所: ギャラリー八十川

神戸市東灘区住吉本町1-6-8

●ツツミアスカ/福岡舞子●

<3人展-3 styles derived from print making>

会期: 2006年2月21日(火)~2月26日(日)

場所: ギャラリー三条

京都市中京区三条小橋西入 鶴の井ビルF3

●山本桂右●

<山本桂右展>

会期: 2006年3月27日(月)~4月1日(土)

場所: 養清堂画廊

〒104-0061 東京都中央区銀座5-5-15

TEL: 03-3571-1312

<山本桂右展>

会期: 2006年4月25日(火)~5月7日(日)

場所: ギャラリー白川

〒605-0822 京都市東山区祇園下河原上弁天町430-1

編集後記
今回の号は、会報担当のスケジュール調整が上手くいかず原稿を依頼した先生方にご迷惑をおかけしましたが、皆様のご協力もあり無事発行する事ができました。やはり会報の内容が興味深いものになったのは、原稿を依頼させて頂いた方々、各種情報をお寄せ頂いた方々のおかげだと大変感謝しております。次回の発行は半年後を予定しています。皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しておりますので、どしどしお寄せ下さい。それでは、今後とも宜しくお願い致します。尚、掲載希望の記事、情報等の送り先のお間違えがないようご注意ください。

会報担当一同

